

《Lesson 3》 間接疑問文（2）

【間接疑問文の復習】

- (1) 疑問文を文の一部として使うやり方
- (2) 疑問文の形が「疑問詞＋肯定文」となるのが特徴。

<例> I know what it is. (I know what is it. =×)

<私は、彼が何を好きなのか知っています>

We know why he did it. (We know why did he do it =×)

<私たちは、彼がなぜそれをしたのか知っています>

【今回学ぶ間接疑問文】

- (1) **yes / no** で答える疑問文 (**Do you~? / Is she~?**など) を間接疑問文の形にする。
- (2) 「疑問詞＋肯定文」ではなく「**if / whether** + 肯定文」という形になる。
- (3) 意味は「～ (かどう) か」となる。

<例> I need to know **if** he will come.

I need to know **whether** he will come.

} (彼が来るか私は知る必要があります)

They asked **if** I was a teacher.

They asked **whether** I was a teacher.

} (彼らは私が先生かたずねました)

ポイント！ **if** と **whether** の違い

whether は **if** よりも硬い表現と言われています。そのため、目上の人と話す時や、どちらを使った方がよいか困った場合は **whether** を使う方が無難だと思います。

<例> I want to know **if** he will use this today.

I want to know **whether** he will use this today.

} (彼がこれを使う予定なのか知りたいです)

【間接疑問文の肯定文：基本の形】

主語 + 動詞 + if / whether + 肯定文

(主節)

(従属節)

<例> She knows **if (whether)** he likes sushi. (彼女は、彼がお寿司を好きかどうか知っています)

I asked **if (whether)** Tom *could play the guitar. (トムがギターを弾けるのか私は尋ねました)

*主節 (I asked) が過去形なので、「時制の一致」で **can** ではなく **could** になるので注意。

【間接疑問文 (2) : 肯定文の作り方】

ステップ①: 「主節」と「従属節」を見分ける。

ステップ②: 「主節」+「従属節」にして、「従属節」を「if/whether+肯定文」の形にする。
(主節が過去形の場合、時制の一致にも注意)

<例1> 「彼女は、彼はお寿司が好きなのか知っています」という文の場合

ステップ①: 「主節」と「従属節」を見分ける。

主節: 「彼女は知っています」 **She knows**
従属節: 「彼はお寿司が好きですか？」 **Does he like sushi?**

ステップ②: 「主節」+「従属節」にして、「従属節」を「if/whether+肯定文」の形にする。

She knows if (whether) he likes sushi.

<例2> 「トムはギターが弾けるのか私は尋ねました」という文の場合

ステップ①: 「主節」と「従属節」を見分ける。

主節: 「私は尋ねました」 **I asked**
従属節: 「トムはギターが弾けるのですか？」 **Can Tom play the guitar?**

ステップ②: 「主節」+「従属節」にして、「従属節」を「if/whether+肯定文」の形にする。
(主節が過去形の場合、時制の一致にも注意)

I asked if (whether) he could play the guitar.

【間接疑問文 (2) の疑問文&疑問文】

基本的に

主節の文の種類 (be 動詞の文、一般動詞の文、助動詞の文など) のルールを使う。

<例> She knows if he can play tennis. → 主節 (She knows) が一般動詞の文
(彼女は、彼はテニスができるのか知っています)

【否定文】 She **does not (doesn't)** know if he can play tennis.

(彼女は、彼はテニスができるのか知りません)

【疑問文】 **Does** she know if he can play tennis?

(彼女は、彼はテニスができるのか知っているのですか?)

【+副詞】 She **also** knows if she can come with us.

(彼女は、彼はテニスができるのかも知っています)

ポイント！許可を求める Do you mind if ~?

ifをつかった間接疑問文で Do you mind if ~? の形はよく使われます (Do you mind whether ~?とは基本的に言わない)。直訳は「~することを気にしますか」ですが、ニュアンスとしては「~してもよろしいですか」といった許可を求める丁寧な言い方となります。注意しないといけないのは答える時。Do you mind if ~? は「~することを気にしますか」という意味なので、基本的には以下のようになります。

Yes と答える = 気にします = してはいけません (許可を与えない)

No と答える = 気にしない = してもよい (許可を与える)

- <例> Do you mind if I open the window? (窓を開けることを気にしますか (開けてもいいですか))
- Yes (, I do) . (はい、気にします) **【窓を開けてはいけない】**
 - No (, I don't) . (いいえ、気にしません) **【窓を開けてもよい】**

また「許可を与えない」場合、Yes と答えると「強い断り」に聞こえてしまうので「I'm sorry. + 理由」というのが丁寧な断り方です。また No と答える場合でもその後に **go ahead (どうぞ)** と一言足すのが良いでしょう。

- <例> Do you mind if I open the window? (窓を開けてもよろしいですか)
- I'm sorry. I think it is very cold here. (ごめんなさい。ここは、とても寒いと思うので)
 - No. Go ahead. (はい。どうぞ)